

モヤモヤ万歳

Viva Unclearness



山中 真也*
Shinya Yamanaka

「私は、粉体工学が好きだ」。61巻1号の寄稿（執筆者：高井千加先生）、62巻第1号の巻頭言（執筆者：飯村健次先生）の言葉である。

「私も粉体工学が好き」と言いたかったのだが、本年一発目のモヤモヤが発動した。2025年1月中旬、出張先に向かう途中の機内。普段は作文か読書をしているのだが、そのときは何気なく音楽を聞いていた。ある歌詞が気になった。あいみょんの曲“ふたりの世界”の「いつになったら私のことを嫌いになってくれるかな」という歌詞である。これが出てくるまでに私の頭の中で描かれたふたりの関係性は単なる恋人同士だったのに、それを否定する表現に「好きじゃないんかい！」と周りに聞こえない程度の音量で独り言を言ってふと気づく。ちょっとは粉体工学が「嫌い」なときがあってもいいじゃないか。スッキリした。私も、やっぱり粉体工学が好きだ。

高井先生や飯村先生が言うから読者に想いが伝わるのであって、誰が言うのかによってその伝わり方は変わる。「憧れるのをやめましょう」。WBC第5回大会の決勝戦前、対戦相手を念頭に大谷翔平選手が発した言葉である。当時ゾクゾクしたこの言葉も、超一流で進化中の人と言うから破壊力抜群の言葉に生まれ変わる。たぶん、周りの選手たちは周りに聞こえない程度の音量で言ったに違いない。「いやいや、目の前にいる“あんた”に憧れているのだが…」と。

大谷選手はスピーチの中でこうも言っていた「今日一日だけは」。私が博士後期課程の学生だった18年ほど前、夏の若手勉強会で、ある先生に「なぜドクターに進学したのか？」と聞かれた。「先輩方に憧れて」と答えた私は「止めといたほうがいい」と言われた。そこで議論しなかった私が悪いのだが、なんで憧れたらだめなのだろう。モヤモヤが続いていた。憧れてしまったら越えられない、つまり憧れ＝限界と解釈すれば、その人は一番にはなれない。そう思って、止めたほうがいいと助言してくれたのか？だが、憧れ＝お手本や選択肢と考えれば、それは沢山あってもいいし、あった方がいい。大谷選手だって「今日以外は大好きにどうぞ（今日一日だけは）」って言っているし。「好き」という言葉に続いて、年始早々、粉体工学会誌のおかげで

長年のモヤモヤが晴れた。

私は2023年10月から約5年間の計画で、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究開発プロジェクトを実施している。プロジェクトの目的は、北海道伊達市を、皆が自分らしい生き方（学び方、働き方）に挑戦できるお手本や選択肢にあふれた「憧れの街」にすることである。主役はあくまで街に住む人びとである。アカデミア中心の学際研究ではなく、そこに住む人びとから学び、共に考え、共に行動する、いわゆる“超学際研究”に挑戦している。粉体工学とは程遠いプロジェクトのように思われるかもしれないが、粉体工学との共通点が二つある。“因果関係”と“構造と機能”である。

私には“憧れの人”が何人かいる。しかもいいタイミングで現れてくれる。何年か前に、“憧れの人”の講演を拝聴して以来、本人の了承を得て出前授業などでよく使うクイズが「マンホールの蓋はなぜ丸い？」である。一般的な解答は「蓋が丸いと落ちないから」だ。ネットで検索してもイラスト付きでそのように教えてくれるが、これは十分ではない。丸管の上に乗せるために丸くつくられており、落ちないのは副次的な結果にすぎない。原因と結果の曖昧さを指摘するクイズである。伝えたいことは「科学の仮説はだいたいこんなもので、どんなに信じられている定説（常識）でも、それを覆す決定的な証拠“キラーカード”が見つかってないだけ」と“憧れの人”に教えてもらい、私は、ある現象の“因果関係”をいろんな視点で検証する必要があると理解している。

私は、対象とする物質（粒子）やその集合体である粉体の“構造と機能”のモヤモヤに対して、どこまで原因と結果に迫れるかに向き合ってきた（いる）。プロジェクトの申請書をモヤモヤしながらつくっているときに、粒子や粉体を“人や街”に置き換えてみた瞬間に目的への道筋が見えた。私の首を真綿で締めるように導いてくれた昨年本学を退職された“憧れの人”と、その人が教えてくれた一つの論文のおかげである。プロジェクトの一つのテーマに設定したレバレッジ・ポイント分析は、私の研究者人生で一番のホットトピックである。街で起こった、または起こっているイノベティブな人びとの意識の変化、価値観の転換や協働の連鎖の“因果関係”をネットワーク図として可視化する。これにより、どこが社会システム全体を大きく転換させた点かをあぶりだす。1月中旬出張先で、プロジェクトの共同研究者になってくれたその論文の著者である“憧れの人”にガリガリ教えてもらった。

粉体工学は、憧れの人との接点を沢山つくってくれる。粉体工学は、いつでもモヤモヤを私にくれるし、モヤモヤを晴らそうとしてくれる。モヤモヤ万歳。

（著者紹介）

室蘭工業大学大学院 工学研究科 しくみ解明系領域 教授
略歴：2010年3月同志社大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士（工学）取得。同年4月大阪大学接合科学研究所 特任研究員。2011年4月室蘭工業大学大学院工学研究科 助教。2012年12月同准教授、2024年7月同教授（現在に至る）。
専門：炭酸カルシウムの構造と機能、粉砕、晶析
* 連絡先 syama@muroran-it.ac.jp